

(日) 杉村 泰 著

日语语法

日本語学習者のための日本語教育文法

问题解疑

外语教学与研究出版社

H364/112

2007

中国

(日) 杉村泰 著

日语语法 问题解疑

日本語学習者のための日本語教育文法

北京教育科学出版社
北京

图书在版编目(CIP)数据

日语语法问题解疑 / (日)杉村泰著. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2007. 11

ISBN 978-7-5600-7053-7

I. 日… II. 杉… III. 日语—语法—研究 IV. H364

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2007) 第 169285 号

出 版 人: 于春迟

责任编辑: 唐晓艳

封面设计: 山文丰

版式设计: 张苏梅

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京京科印刷有限公司

开 本: 850×1168 1/32

印 张: 9.25

版 次: 2007 年 12 月第 1 版 2007 年 12 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5600-7053-7

定 价: 15.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

前 書

本書は日本語教育においてしばしば問題となる文法項目を取り上げ、その用法について分析した研究書である。本書に取り上げたトピックは、先行研究でも考察がなされ、学習者用の辞書や文法書にも解説がなされているものである。しかし、例文を豊富に収集して検証していくと、先行研究の記述にはない興味深い事実のあることに気づく。

たとえば、第1章で取り上げる「テアル構文」は従来「意志的」行為の結果を表す「アスペクト表現」とであると説明されてきた。しかし、実際には「電話ボックスに財布が忘れてある」のように無意志の行為に対しても「テアル構文」が使われる。このような表現について分析することにより、「テアル構文」の実態がより明らかとなる。また、第2章と第3章で取り上げる「格助詞」は意味と形式の対応が複雑で、日本語学習者が習得に苦労する文法項目の代表格である。これについて、本書では教育的観点から「意味と形式の一対一対応の原則」に基づいて、学習者の記憶に負担のかからない意味記述を行なった。

本書では日本語教育文法の立場から、豊富な用例を挙げ、分かりやすく実用的な文法解説を志した。本書が日本語研究のみならず日本語教育の現場でも活用されることを切望している。

杉村 泰

表記について

ii

1. 例文の「*」はその文が非文であることを示す。
(例) 去年、太郎は大学 {を/*から} 出た。
2. 例文の「?」はその文が不自然な文であることを示す。
(例) ?オムレツは出来たてををたべるベキのようだ。
3. 例文の「#」はその文自体は非文ではないが、当該文脈では使えないことを示す。
(例) #生まれる子は男の子ニチガイナイ。
(一般的事実を表す場合)
4. 例文で分析の対象となる表現に下線を引く。
(例) おや、財布が忘れてある。
5. 実例と作例を合わせて書く場合、実例の部分は原文のまま表記し、作例の部分はカタカナで表記する。
(例) 国境の長いトンネル {を/?カラ} 抜けると雪国であつた。
(川端康成『雪国』)
6. 他の論文から例文を引用した場合、元の例文に下線があれば下線を引き、下線がなければ下線を引かない。

目次

第一章 意志性のないテアル構文

1. はじめに.....	1
2. テアル構文の2類型.....	1
2.1 先行研究.....	1
2.2 本書の立場.....	5
3. 無意志のテアル構文.....	6
4. コーパスによる調査と分析.....	9
5. まとめ.....	22

iii

第二章 格助詞のイメージ

1. はじめに.....	25
2. 「に」の意味.....	26
3. 「に」と「から」.....	28
4. 「に」と「と」.....	32
5. 「に」と「で」.....	33
6. 「に」と「まで」.....	38
7. 「に」と「へ」.....	39
8. まとめ.....	41

第三章 起点を示す格助詞「を」と「から」

1. はじめに.....	45
2. 先行研究.....	45
3. アンケート調査.....	49
4. 母語話者の「を」と「から」の使い分け.....	52
5. 学習者の誤用.....	56
6. まとめ.....	57

第四章 接尾辞「～中」(ちゅう)と「～中」(じゅう)

1. はじめに	59
2. 問題の所在	60
3. 「中」(ちゅう)と「中」(じゅう)の使い分け	62

第五章 複合動詞「一直す」の用法

1. はじめに	69
2. 先行研究	69
3. 本書で使用了コーパス	71
4. CD-ROM版『新潮文庫の100冊』の検索結果	72
5. インターネットのWWWページの検索結果	74
5.1 「一直す」と共起する動詞	74
5.2 「行為の繰り返し」について	77
5.3 多義的な「一直す」の用法について	78
6. まとめ	90

第六章 「ヨウダ」、「ソウダ」、「ベキダ」の主観性

1. はじめに	93
2. 命題とモダリティ	93
2.1 命題とモダリティの定義	93
2.2 命題とモダリティの境界	95
2.3 命題とモダリティの分類基準	96
3. 「ヨウダ」、「ソウダ」、「ベキダ」	97
4. 比況の「ヨウダ」と推量の「ヨウダ」	99
5. 「ヨウダ」と「ソウダ」	105
6. 「ヨウダ」と「ベキダ」	110
7. 真偽判断と当為表現の統語的關係	116
8. まとめ	119

第七章 蓋然性を表す文末のモダリティ形式

1. はじめに	123
2. 認識と推量	124
3. 「カモシレナイ」、「ニチガイナイ」、「ダ/φ」	126
3.1 「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の異質性	126
3.2 両者の異質性を示す証拠	129

3.2.1 推量文と一般的事実を表す文	130
3.2.2 連体修飾成分	133
3.2.3 対話文と独話文	136
3.2.4 譲歩の文	143
3.2.5 伝聞文	144
3.2.6 「ベキダ」との共起	145
3.2.7 コーパスによる調査	145
3.3 「カモシレナイ」と「ダ/φ」の同質性	146
3.4 認識確定性	149
3.5 判断の焦点	155
4. 「ニチガイナイ」、「ヨウダ」、「ラシイ」	158
4.1 判断の根拠	158
4.2 推論の型	162
4.3 推論の裏付けとなる根拠	168
4.4 「ヨウダ」と「ラシイ」の違い	173
4.5 「ニチガイナイ」と「ヨウダ、ラシイ」の違い	174
5. 「ダロウ」と「デアロウ」	175
6. まとめ	178

第八章 否定副詞「ケッシテ」と「カナラズシモ」

1. はじめに	185
2. 否定と否定副詞	186
2.1 「マサカ」	187
2.2 「ケッシテ」と「ゼンゼン」	188
2.2.1 否定構文の二種類	188
2.2.2 二種類の「ない」	189
2.2.3 構文の意味と副詞の意味	191
3. 否定と発話の前提	192
3.1 「ケッシテ」と「ゼッタイニ」	192
3.2 発話の前提	194
3.3 構文の意味と副詞の意味	197
4. 「ケッシテ」の意味	198
4.1 「譲歩」の意味	198
4.2 全部否定・部分否定	199
4.3 「ケッシテ」による強調機能	201
4.4 主観性	202
5. 「ケッシテ」と「カナラズシモ」	204

6. 「ケッシテ」と全部否定・部分否定.....	206
7. 「ケッシテ」と「カナラズシモ」の連続.....	208
7.1 「ケッシテ」と「カナラズシモ」の違い.....	209
7.2 「ケッシテ」が「カナラズシモ」に近接する例.....	210
7.3 「カナラズシモ」が「ケッシテ」に近接する例.....	214
8. まとめ.....	216

第九章 中国語の「給人」と日本語の「人に」

1. はじめに.....	221
2. 授与動詞「給」と「与える」.....	222
2.1 中国語の「給」.....	222
2.2 日本語の「与える」と「やる/くれる/もらう」.....	223
3. “S+給人+VO”構文と“SVO+給人”構文.....	226
3.1 “S+給人+VO”構文.....	226
3.2 “SVO+給人”構文.....	229
3.3 “S+給人+VO”構文と“SVO+給人”構文の合成.....	231
4. 中国語の「买卖」と日本語の「売買」.....	232
5. “給人”と「人に」/「人のために」.....	233
5.1 「人に」と「人のために」.....	234
5.2 授受補助動詞構文.....	236
6. まとめ.....	239

第十章 収束する「に」、発散する「へ」

1. はじめに.....	243
2. 格助詞「に」と「へ」.....	245
3. 日本語母語話者の使い分け.....	248
3.1 実験.....	248
3.2 各構文の意味.....	255
4. 収束する「に」、発散する「へ」.....	257
4.1 広告コピーの場合.....	257
4.2 新聞の見出しの場合.....	259
4.3 未来志向の「へ」.....	260
5. 上級・超上級学習者の使い分け.....	261
5.1 格助詞穴埋めテスト.....	262
5.2 上級・超上級学習者の特徴.....	267

6. 格助詞のイメージ	273
7. まとめ	277
<謝辞>	283

第一章

意志性のないテアル構文

1. はじめに

テアル構文は益岡（1987）に「意志的行為の結果に重点が置かれる『結果相』の表現」とあるように、従来「意志的行為の結果」を表すとされてきた¹。しかし、テアル構文は(1)のように無意志の行為にも使われる。第1章ではこうした無意志のテアル構文に着目し、テアル構文の意味について再検討する。

(1) おや、財布が忘れてある。

2. テアル構文の2類型

2.1 先行研究

先行研究では、「対象ガ～テアル」と「対象ヲ～テアル」の関係を中心に論じられてきた。このうち、高橋（1969）や吉川（1973）は「対象ガ～テアル」が基本であるとして、ある条件の下で「対象ヲ～テアル」が成立すると主張した。まず、高橋（1969）はテアル構文を次の3種類に分類し、(a)うごきの間接対象の変化した状態を問題にすると、(b)うごきの主体でも対象でもないものを題目語にしたり、それを規定したりするばあい、(c)準備としてするばあいに「～ヲ～テアル」になることがあると説明した。

1 高橋（1969）、森田（1977）、寺村（1984）、益岡（1987）、大場（1995）など。

2

1. 目にみえるような形での状態を表す

(2) 夏のことで窓はあけはなたれ、細いよしすだれがそこへさ
げてある。(暗夜行路 236)

2. 放任の状態を表す

(3) その仕事はかれにまかせてあります。

3. 準備のできた状態を表す

(4) 女中にまで口どめしてある。(暗夜行路 97)

((2)~(4)は高橋1969の例文)

これを受けて吉川(1973)はテアル構文をさらに5種類に分類し、「『してある』全般にわたって、『が』をとることが多く、4.2から派生したもの²のうちに、比較的多く『を』をとるものを見いだすにすぎない、とだけ言える」(p.266)と説明した。しかし、「対象が」が基本で「対象ヲ」は派生であると考え、(5)のように「対象ヲ」の方がふさわしい場合の説明ができなくなる。

(5) 私は警察に捜査 {を/?が} 依頼してある。

一方、森田(1977)は両者の形式的な違いに着目し、両者に次のような意味の違いがあることを指摘した。

～ガ **他動詞** テアル……行為の結果の現存

～ヲ **他動詞** テアル……前もって準備、結果の蓄積

これを受けて益岡(1987)は、テアル構文を統語的に大きくA型とB型の2つに分け、さらにA₁型とA₂型、B₁型とB₂型に分類した。こうして、「テアル表現の全体像は、A₁型から、A₂型、B₁型を経

2 対象が変化した結果の状態を表すテアルのうち「準備」の意味を持ったものの。

てB₂型に至る、1つの連続体を構成している」(p.232)と説明した。この「連続体」という捉え方に益岡(1987)の特徴がある。

【形式】

A型：対象ガ ～テアル (動作主は抑制される)

B型：動作主ガ 対象ヲ ～テアル

【意味】

全体に共通する意味：意志的行為の結果に重点が置かれる「結果相」の表現

A₁型：行為の結果もたらされる、対象の或る場所での存在を描写するタイプの表現

(6) 盆栽が幾鉢かならべてあった。 (松本清張『張込み』)

A₂型：或る行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、視覚可能な形で存続していることを描写するタイプの表現

(7) 新聞紙の半分ぐらいをさらに四つに切ったぐらいの切り抜きが折ってあった。 (松本清張『地方紙を買う女』)

B₁型：行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、基準時において引き続き存在しているという、「結果の事態の存続」の意味が表される

(8) 業行は自分が写した経巻類をまだ相当量各地の寺々に預けてあり……。 (井上靖『天平の甕』)

B₂型：単に、行為の結果が基準時(及び、それ以降)において何らかの有効性を示す、という意味での結果相を表す。対象の何らかの状態がその時点で存続している、といったことは、問題にされていない

(9) もちろん、天王山にむけてそれぞれの調整を指示してあります。 (報知新聞 1983.7.24)

益岡(1987)の研究により、テアル構文の意味的構造は非常にすっきりと整理された。しかし、次の点についてはほとんど触れずに議論が進められている。これを無視して「連続体」と言っても、テアル構文の全体像を説明したことにはならない。

1. 無意志のテアル構文

- (10) おや、こんなところに卵が産んである。
- (11) おや、ガスがつけっ放しにしてある。

2. 「二/ト/φ~テアル」構文

- (12) 将来生活に困らないように学校に行ってある。
- (13) 親の遺産について兄弟と話し合っている。
- (14) 今日の試合に備えて十分に(φ) 走っている。

3. テアル形にならない意志動詞

「待つ」「生活する」「おっしゃる」など

この点について、筆者は杉村(1995、1996a-b)において、意志性は「テアル」自体に備わったものではなく、「行為描写文」という構文の特性に由来するものであることを指摘した。しかし、益岡(2000)は無意志のテアル構文の存在を認めながらも、「これらの例は、シテアル(シテアッタ)の用法が拡張しつつあることを示しているのかも知れない」(p.108)と述べ、「原則として意志動詞にしか認められない」(p.101)という立場をとっている³。

3 中畠(1996)は、「『意図的』と言ってもよいと思うが、杉村(一九九六)で「サイフが置き忘れてあった」「ガスがつけっ放しにしてある」等の例が指摘されており、それらは意図的とは言えないので、『人為的』とした」(p.53)としている。

2.2 本書の立場

一般にテアル構文はテイル構文と同じアスペクト表現の1つに数えられている。これに対し、本書ではテアル構文を「存在表現」の1つとして考える立場を取る。すなわち、「財布が忘れてある」のような表現は、財布がどのようにして「ある」のかを表す表現であると考えられる。こう考えることにより、テアル構文の真の姿が見えてくるのである。本書で考えるテアル構文の意味は次の通りである。

テアル自体の意味：行為の結果に重点が置かれる「存在表現」⁴

A型：対象ガ（場所ニ） ～テアル（動作主は抑制される）

意味……行為の結果もたらされる対象の存在や変化を表す

(15) おや、窓が開けてある。

B型：動作主ガ（対象ヲ/ニ/ト） ～テアル

意味……行為の結果が何らかの有効性を示すことを表す

(16) 換気のため、（私は）窓を開けてある。

まず、A型のテアル構文は「情景描写文」の一種で、対象がどのように「ある」のかを述べた表現である。広義の「存在文」に含められるものであり、意味的に本動詞の「ある」と連続している。A型の場合、(17)、(18)のように人間の意志的な行為に使われることが多いが、(19)のように行為の結果が目に見える形で残されている場合には、無意志の行為でも成立する。

(17) 冷蔵庫にビールが冷やしてある。

4 筆者は杉村（2002）まではテアル構文をアスペクト表現と考えていた。テアル構文を「存在表現」と考えるようになったのは杉村（2003）からである。

(18) 壁に落書きが書いてある。

(19) 電話ボックスに財布が忘れてある。

一方、B型のテアル構文は「行為描写文」の一種で、行為の結果、何らかの有効性が残存していることを述べた表現である。しばしば「準備・目的」の意味が付随し、意味的にテオク構文と連続している。したがって、動詞も意志的なものとなる。しかし、テオク構文がある目的のための行為それ自体を表すのに対し、テアル構文は行為の結果、動作主あるいは場の状況において何らかの効果が存在していることを表すという違いがある。

(20) 図書館にはすでに本を返してある。

(21) 試験中に寝ないように、昨日は十分に寝てある。

A型とB型は典型的には上のような意味を表すが、形式と意味が完全に対一に対応するわけではなく、話し手が情景描写と行為描写の中間的な描写を行ったとき、形式と意味の間にゆれが生じると考えられる。

3. 無意志のテアル構文

杉村(1996a-b)では、『日本語基本動詞用法事典』にある動詞を含む1,020語の動詞を対象に、「テアル形」、「意志形(シヨウ)」、「命令形(シロ)」、「禁止形(スルナ)」になるかどうかを調べた(表1-1)。その結果、無意志のテアル構文はA型に現れることが分かった。

A型のテアル構文は広義の存在文の一種で、眼前の対象が人あるいは動物の行為によってもたらされ、何らかの状態で存在していることを述べた文である。眼前の対象は通常動作主の意志によってもたらさ

れるが、時には動作主の意志なしにもたらされることもある。(22)において話し手の関心は眼前の卵の存在にあり、卵を産んだ動作主にその意志があったかどうかは問題とされていない。(23)は動作主がすっかり忘れた例で、明らかに意志性はない。いずれも「卵が（産んで）ある」、「カバンが（忘れて）ある」のように考えることにより、広い意味での存在表現であることが分かる。

(22) おや、こんなところに卵が産んである。

(23) おや、机の上にカバンが忘れてある。

大場（1995）は(24)の例を挙げて無意志のテアル構文の存在を認めている。しかし、結局は「動作主体によって、意志的に行われた動作の『結果』を述べるための構文」（p.3）と捉え、「なぜ、『忘れる』がテアル構文になりうるのかについてはよくわからない。ここでは、テアル構文の中で、『忘れる』だけが（非意志的であるにも関わらずテアル構文になりうるという意味で）特別な例であることを指摘するに留めたい」（p.3）と述べている。しかし、これを例外として処理するのではなく、A型のテアル構文として位置づけることにより、テアル構文の全体像が一層明確になる。

(24) （鞆の中になぜ手袋が入っていたのかときかれて）これは
礼装用のものを入れ忘れてあっただけですわ。

（斉藤栄『鎌倉京都殺人事件』）